

園芸新聞

転炉スラグの有用性検討

11月27日
東北農研主催でシンポジウム
東京農大世田谷キャンパス

農研機構東北農業研究センターは、「転炉スラグは有望な農業資材とな
り得るかー農業分野での技術開発の可能性を探る」と題したシンポジウム
を11月27日（金）に東京農大世田谷キャンパスで開催する。

後藤名誉教授らが講演

土壌病害の根こぶ病や 特徴である。

ホモブシス根腐れ病対策 東京農大の土壌学
として転炉スラグが被害 研究室は昭和50年代より
を軽減する資材として近 研究（室長、後藤逸男教授）
年注目されている。転炉 スラグの農業利用に
スラグは製鉄所で鉄鉄か ついて研究をしている
ら鋼を製造するための転 が、当初は「わが国の土
炉で副成される資材で、 機構東北農業研究センタ
原料はすべて天然物であ り、思うように普及させ
り、1600℃の高温で 11月27日に東京農大世田
ることができなかった。 谷キャンパスで開催され

生産されるのでカドミウ しかし、10年ほど前から
ムやヒ素は全く含まれて アブナ科野菜根こぶ病
いない。またマンガンや 対策を中心し複数回の研
ホウ素などの微量要素が 究・普及機関に注目され
含まれているので高畑で るようになり、その後、
も生育に影響はないのが 転炉スラグ技術がウリ科 策として開発した新技術

の有用性、作物の生育や 研究所岩間俊太氏。②「転
肥料・重金属の吸収に与 炉スラグ施用時の肥培管
える影響について情報共 理と復田した場合の影響
有を図るとともに、研究 等海域利用に向けた取り
成果の発表や農業分野で 組み」新日鐵住金(株)先端
の新たな技術開発の可能 技術研究所加藤敏朗氏。

性について議論する。 ③「水田で発生するメタ
日時 11月27日（金）10 現状と経営評価」JAと
時 16時30分（受付開始 びあ浜松高倉克弥氏。

9時15分） ④「土壌病害の被害軽減機
会場 東京農大世田 構の解明とその利用（座
谷キャンパス・横井講堂 長・農研機構東北農業研
プログラム 究センター永坂厚氏）

（1）開会挨拶 ⑤「閉会挨拶
（2）基調講演「鉄鋼ス 参加費 無料
ラグを農業生産現場で活 申込み 申込み紙は農研
用するための研究開発と 機構のホームページより
普及」東京農大名誉 ダウンロード（http://
教授後藤逸男氏。 www.naro.affrc.go.jp/eve
（3）話題提供 記入後開催事務局へFA
東北農業研究センター今 Xまたはメールする。
術への利用（座長・農研 事務局および連絡先 農
機構東北農業研究センタ 研機構東北農業研究セン
ー御子柴義郎氏）①「東 ター・産学官連携支援セ
北地域における野菜類土 ンター TEL/FAX
壤病害の被害軽減技術へ 019-643-34
の利用（地独）青森県産 郎氏 60 E-mail: sangaku@
業技術センター農林総合 ml.affrc.go.jp